

平成30年産こがねもち栽培指導基準

JA名: 佐渡

地区名: 全域

栽培形態: 5割減栽培

- この栽培指導基準は安全・安心で高品質な米を生産するために、地域の実態に即してJA佐渡が作成しました。
- 使用する肥料・農薬はJAが推奨する品目ですが、推奨品目以外でも適正な品目については、使用可能です。
- 生産工程管理において、著しくJAの栽培指導を逸脱しているとJAが判断した場合は、「JA米以外の一般米」として取り扱われます。

時期	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
栽培管理	種子消毒(温湯消毒済み) 育苗箱消毒(A、B)			浸種 育苗床土準備(①、②) 覆土消毒(細菌性病害防除)(C)			耕起 一発基肥施用(⑥) 基肥(窒素3kg)または 播種(D)			代かき・初期除草剤散布(F) 田植(6日頃)(⑤、⑥) Dロオイムシ等苗箱防除(D、E) 弁当肥施用(③、④)			中干し・溝切り			農道畦畔の草刈 稲こじ病防除(J) 農道畦畔の草刈 穂肥施用(窒素1.5kg)(⑧)			飽水管理 カメムシ防除1回目(K)			カメムシ防除2回目(L) 落水			収穫			秋すき込み 土づくり資材の施用(⑩、⑪)		

※ ①～⑨、A～Iについて、JAが推奨する肥料・農薬は下表を参照願います。(なお、1つの記号に複数品目掲載されている場合、1品目を選択してください。)

■推奨肥料と施肥基準(例:一般的な品目)

記号	肥料名	成分	施肥基準(kg/10a)	備考
①	合成培土3号	床土:2.8kg/箱	56	
	ホーネンス培土	床土:3.0kg/箱	60	
②	育苗床土	覆土:1.2kg/箱	24	
③	べんとう肥	20g/箱 N4%	0.8	
④	くみあい液肥2号	10cc/1L/箱	0.2	
⑤	エコペスト特号	10-5-7有機由来窒素30%	35	
⑥	さおとめ有機	10-14-10-Mg1有機由来窒素50.8%	30	低地力 40kg
	早生専用有機一発基肥	12-7-5 有機由来窒素51.3%	40	低地力 45kg
⑦	けい酸加里プレミアム	K20-Mg4-B0.1 ケイサン34	30	
⑧	さおとめ有機穂肥	12-4-10-Mg2 有機由来窒素37%	10	N成分合計で2.3kg以内
⑨	味好2号	7-2-7 有機由来窒素100%	15	
⑩	アグリ革命	酵素による稲わら腐熟促進	2	
⑪	醗酵ケイフン(粒状)	2~3-6~7-3~4	30	低地力地域ではケイフンを同時施用
	粒状ようりん	P14-K5-Mg4 ケイサン17	20	

■推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準(例:一般的な品目)

記号	薬品名	※成分数	農薬使用基準		
			希釈倍数・散布量(10a当り)	使用時期	使用回数
A	イチバン	-	500倍、瞬時浸漬	播種前	-
B	エコホープDJ	-	200倍液	浸種前～催芽時	1回
C	タブブロック	-	200倍液(24~48時間)	催芽前	1回
	エコホープDJ		200倍液(24時間)	催芽時	
	カスミン液剤	1	4倍液	1箱当り希釈液50mlをは種した種籾の上から均一に散布する。	1回
D	パディート箱粒剤	1	50g/箱	播種時覆土前～移植当日	1回
D	ツインパディート箱粒剤	2	50g/箱	播種時覆土前～移植当日	1回
D	スタウトパディート箱粒剤	2	50g/箱	播種時覆土前～移植当日	1回
F	ベアス1キロ粒剤	1	1kg	植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ発生始期ただし、移植後30日まで	1回
	ベアスフロアブル		500ml		
H	ゼータタイガー(粒剤・ジャンボ・フロアブル)	3	1kg・10個(400g)・500ml	移植時、移植直後～ノビエ3葉期	1回
I	モゲトン粒剤	1	2~3kg	藻類の発生始～盛期(収穫45日前まで)	1回
J	モンガリット粒剤	1	3~4kg	収穫45日前まで	1回
K	キラップ(粉剤・粒剤・フロアブル)	1	3~4kg・3kg・2000倍	収穫14日前まで(但し、MR. ジョーカー粉剤は7日前まで)	1回
	キラップフロアブル(無人ヘリ)		16倍、800ml		
L	MR. ジョーカー(粉剤・EW)	1	3kg・500ml		1回

■栽培管理のポイント(例:県水稻重点技術対策より)

1. 土づくり・施肥
  - ・作土深は目標値(15cm)を確保し、土壌診断に基づいて堆肥や土づくり資材を施用しましょう。
  - ・基肥は、ほ場の地力の状況を踏まえて、適正量を施用しましょう。
2. 播種・田植え
  - ・播種期は4月10日以降、田植期は5月6日頃とし栄養成長期間を確保しましょう。
3. 水管理
  - ・溝切り・中干しは、分けつが発生状況や地力窒素の発現状況を踏まえて、遅れずに(移植後40日をめやすに)実施し、生殖生長への転換(出穂1ヶ月前)までに終了しましょう。
  - ・中干し以降は田面にひび割れを起こさないよう、飽水管理を徹底し、落水期は出穂後25日以降にしましょう。
4. 穂肥
  - ・穂肥は、幼穂長や葉色等の推移から生育診断を行って、適期に適量を施用しましょう。
5. 収穫
  - ・出穂後の積算温度や籾の黄化程度を確認し、適期に収穫しましょう。(収穫適期のめやす:出穂後日数 42日、積算温度 1000℃)
  - ・登熟期が高温の年は、刈り遅れず、ゆっくり乾燥して、胴割粒の発生を防ぎましょう。
6. 選別
  - ・1. 85mm以上のふるい目を用い、適正な流量で、丁寧に選別するとともに、必要に応じて1. 90mmのふるい目や色彩選別機を活用して、品質を高めましょう。

■生産履歴記帳について

- ・栽培管理における各作業日や、肥料・農薬の使用日・使用量等は生産履歴へ記帳しJAへ提出してください。(生産履歴はJAにて3年間保管します。)
- ・生産履歴の提出時期は、8月20日(最終防除終了後)です。
- ・生産履歴記帳とあわせて、種子の保証票(中札)や生産資材の購入伝票を保管しましょう。

■JA米の取り扱いについて

- ・JA米と一般米は区分して収穫・出荷をお願いします。
- ・JA米として出荷された米穀は、JAでの確認後、JA米印が押印され、一般米と区分して取り扱われます。
- ・なお、JAの確認により、JA米の要件を満たさないと判断された米穀は、一般米として取り扱われます。

化学肥料の使用量(窒素成分)		節減対象農薬の使用回数	
慣行基準	6kg以内/10a	慣行基準	18回以内
JA佐渡米基準	3kg以内/10a	JA佐渡米基準	9回以内